

〔重修本草綱目啓蒙十〕燕脂 ベニ カタベニ ウツシベニ 茶盤ニウツ

一名眞紅 函史 紫臘 名物 桃花粧 異名 戈可速 同上 紫臘脂 直訣 桃花粉 通雅 茜 焉

支 胭脂 胭脂 胭脂 烟支 燕脂 同上 燕支 北戸

灰汁ト醋トヲ用テ、紅花ヲシボリテ、紅色ヲトリ乾シタルヲ、カタベニト云、是方書ニ謂ユル乾燕

脂ナリ、ソノ青光アルハ青稻灰汁ヲ用ルナリ、ツヤベニト云、僞ルモノハ醋ヲ多ク入テ、ソノ量ヲ

重クス、ツヤベニヲ用テ布帛ヲ染ム、小椀中ニツケタルヲウツジベニト云、唐山ノ製ハ異ナリ、天

工開物ニ詳ナリ、又ベニヲ綿ニ染メタルヲ綿燕脂ト云、又燕脂ニ粉ヲ雜ヘ、銀朱ノ如クシタルヲ

坯子燕脂附方ト云、燕脂坯子竹蠶方書ニ眞坯ト云ヘリ、又今別ニ和名ニエシジト呼ブモノ藥舖

ニアリ、深紫色ニシテ土塊ノ如シ、中

〔七十一番歌合中〕卅三番 右 紅粉解

心さへ人のけはひにみゆる哉。さ。に。つ。ら。べ。に。の。移。り。や。す。さ。は。 中

御べにとかせ給へ、かたべにも候は、

〔毛吹草三〕寒中紅粉

〔嬉遊笑覽容儀〕寒のべにを賞する事は、貞徳獨吟百韻障障をや、之はすの月の天狗ども、紅粉に木

の葉のちりてまじれる、自注に師走紅粉、木の葉天狗といふ寄合せなり、懷子俳諧集、色見えて

うつるうものや寒のべに、山田

〔江戸狂詩選〕玉屋紅 本町二丁目

朱旗搖影本町風、認得暖簾玉屋中、世上人人貴寒製、買來猪口幾杯紅、

〔東都歲時記十一月〕寒の入 寒中丑の日、丑紅と號て、女子紅を求む、

〔女重寶記〕女けしやうの巻